＜家庭＞

高齢者理解を深める学習指導の工夫
── ディジタルコンテンツ等の活用と生徒の体験的活動を通して ──

沖縄県立浦添工業高等学校教諭　大　嶺　理　香

Ⅰ　テーマ設定の理由

近年，平均寿命の延びと少子化という２大要因により少子高齢化が進み，我が国の高齢化率は2005年から他の先進国を上回って世界一となり，2010年で23.1％となっている。高齢者の世帯構成割合を1995年と2006年で比較してみると，三世代世帯は33.3％から20.5％と減少し，高齢者夫婦だけ，あるいは高齢者の単身世帯は41.5％から51.9％と増加している。このことは，高齢者と生計をともにする家庭は減少傾向にあり，老老介護や高齢者の孤独死といった社会問題にもつながっている。

このように，少子高齢化が急激に進む中で，家庭科教育においても「高齢者の生活と福祉」の領域は重要視されるようになり，平成21年改訂高等学校学習指導要領「家庭編」では「高齢者の心身の特徴や高齢社会の現状及び福祉などについて理解させ，高齢者の生活の課題や家族，地域及び社会の果たす役割について認識させるとともに，高齢者の自立生活を支えるための支援の方法や高齢者と関わることの重要性について考えさせる。」としている。生涯を見通して高齢期をとらえ，老化には個人差が大きいことや，心理的には成熟期ともいえることを理解させることは意義のあることと考える。

しかし，これまでの授業実践において，高校生にとって自分の親や自分自身が年老いていくことは想像し難く，高齢者についてのイメージはマイナス面に偏りがちで，高齢者の持つ知恵やおおらかさ等，プラス面を含めた高齢者を理解させるには十分ではなかった。

また，生徒の実態としても，家庭科の学習内容の興味・関心について質問したところ，「ある」と答えた生徒が「食生活」では90％，「高齢者の生活と福祉」では48％と，42ポイントの差がみられ，「高齢者の生活と福祉」の内容は最も興味・関心が低い結果となった。

そこで，題材「高齢者を理解する」の学習において，高齢者の身体的特徴や心理的側面を理解させるために，高齢者の生活行動の動画を編集したディジタルコンテンツを作成・活用し，さらに高齢者に対する聞き取り調査やシニア体験などの体験的活動を取り入れた学習指導の工夫を行うことで，より深く高齢者を理解することができるのではないかと考え，このテーマを設定した。

＜研究仮説＞

「高齢者を理解する」の学習において，ディジタルコンテンツ等の活用と生徒のシニア体験・介護体験等の体験的活動による学習指導を工夫することにより，高齢者理解を深めることができるであろう。

Ⅱ　研究内容

１　実態調査

(1) 目的

①　アンケート調査により生徒の実態を把握し授業設計をする上での基礎資料とする。

②　研究仮説を検証する資料とする。

(2) 対象および実施期日

沖縄県立浦添工業高等学校

２年生１クラス　33名　平成23年10月・12月

(3) 結果

①「高齢者」の学習の興味・関心について

家庭総合の各学習内容への興味・関心の度合いを調べると，「高齢者の生活と福祉」が各学習内容の中で最も興味・関心の低い結果となった。これは，最も興味・関心の高い「食生活」のデータと比較すると，「とてもある」「どちら

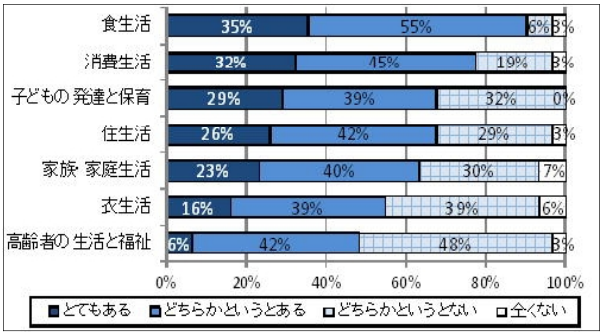


図１　「家庭総合」の各領域への興味

かというとある」と答えた生徒が「食生活」では90%，「高齢者の生活と福祉」では48%と，42ポイントの差がみられた（図１）。

② 祖父母・曾祖父母の生存について

「祖父母，曾祖父母はいますか」という質問に対し，祖父母については94%の生徒が「いる」と答え，そのうち，19%は同居している（図２）。祖父母，曾祖父母がともに「いない」と答えたのは６%，曾祖父母のいる・いないが「わからない」と答えたのは63%と高かった。

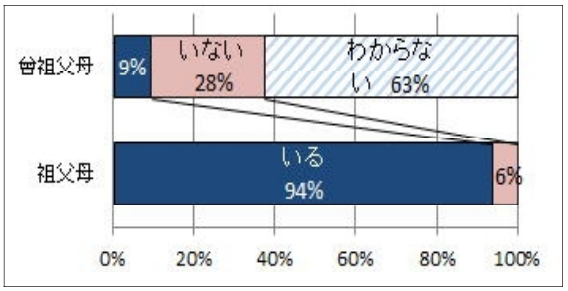


図２　祖父母や曾祖父母はいるか

③ 「高齢者」に対するイメージ

「高齢者」のイメージについてウェビングを取ると，平均7.9個の言葉があげられた。内容をみると，「介護」，「老人ホーム」，「年金」，「病気」等が多くあげられ，好印象的な言葉は「穏やか」，「元気」，「健康」等，５項目であった。それに対し，日頃よく使用され，馴染みのある「おじい･おばあ」からイメージされた言葉は平均6.6個で，「高齢者」と比較すると少なかったものの，「方言」，「ゲートボール」，「元気」，「優しい人」等が多くあげられた。その他にも，「物知り」，「ベテラン」，「尊敬できる人」，「笑顔」などの，人柄を表す言葉が14項目あがった。

表１　「高齢者」と「おじぃ・おばぁ」のイメージの比較

「高齢者」

イメージ	回答数
介護	13
ゲートボール	13
老人ホーム	8
年金	7
バリアフリー	7
病気	6
好印象的な言葉	
穏やか　元気　健康	
知識　優しい	

「おじぃ･おばぁ」

イメージ	回答数
方言	10
高齢者	8
ゲートボール	8
元気	7
優しい人	6
老人	5
好印象的な言葉	
ベテラン　やる気　目上の人	
早寝・早起き　親近感	
尊敬できる人　健康	
穏やか　笑顔　知識	

(4) 考察

アンケート調査の結果から，「高齢者」の学習への興味・関心が他の領域より低いことや，祖父母や曾祖父母のいない生徒もいることがわかった。このことから，授業の中で疑似体験やディジタルコンテンツの活用を取り入れ，具体的なイメージを持たせながら「高齢者」に対する興味・関心を高めさせ，高齢者理解につなげる工夫が必要である。

また，「高齢者」のイメージが「おじぃ・おばぁ」の肯定的なイメージと離れたことについて，「高齢者」という言葉がテレビや新聞などの媒体や学習の場で，社会問題や暗いニュースの場面で使用されることが多く，そのため，生徒の「高齢者」に対するイメージが社会制度や施設等に偏ったのではないかと考えられる。このことから，高齢者へのインタビューや交流活動等，高齢者を身近に感じられるような体験活動を多く取り入れた学習活動の工夫をすることで，生徒の「高齢者」に対する肯定的なイメージが増え，高齢者理解を深めることができるのではないかと考える。

２　仮説検証の手立てと方法

(1) 自作のディジタルコンテンツを活用した理論学習や高齢者理解への効果をアンケートやワークシート，感想から分析する。

(2) シニア体験・介護体験等の体験的活動を実施し，ワークシートや感想，アンケートから生徒の意識の変容を見る。

(3) 事前・事後アンケートによる授業前後での生徒の意識の変容を分析する。

３　素材研究

授業で活用するディジタルコンテンツの制作や授業展開の工夫を行った。

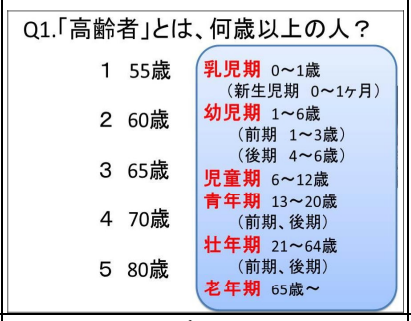
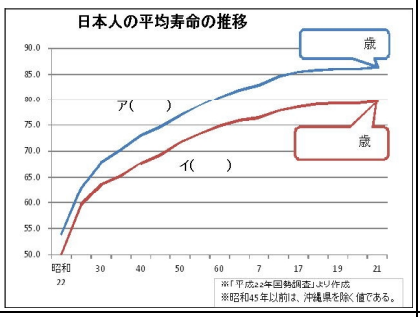
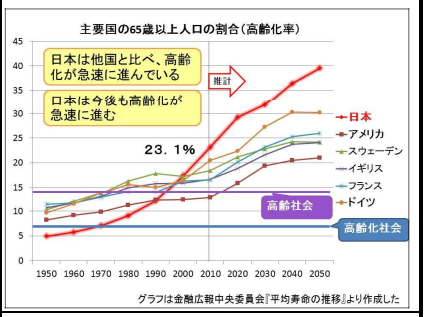
(1) ディジタル教材①「日本の高齢化の現状」（１／８時間）（表２）

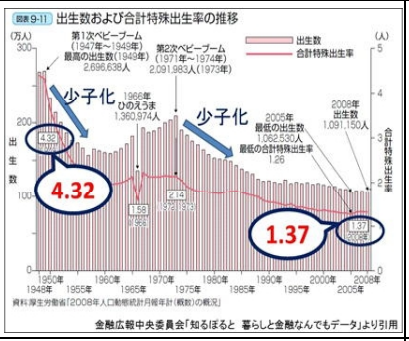
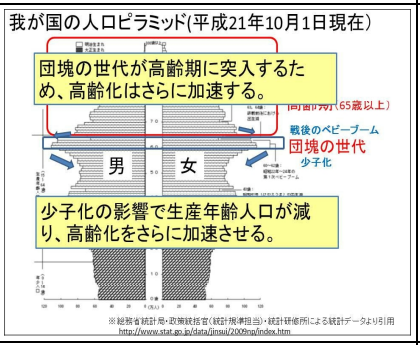
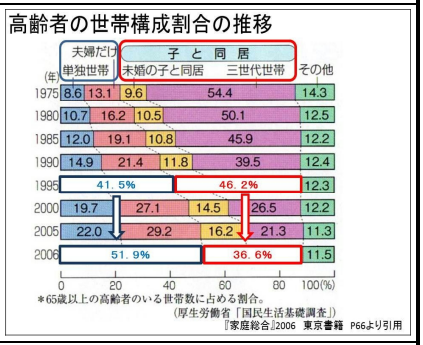
ねらい：日本の高齢化の現状を図やグラフから読み取る。

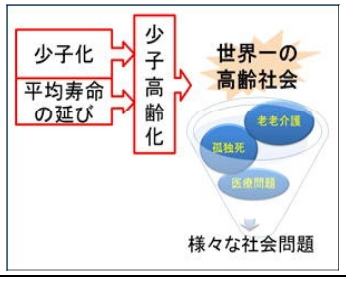
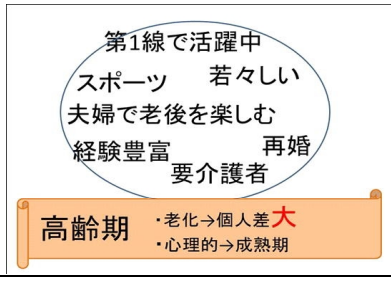
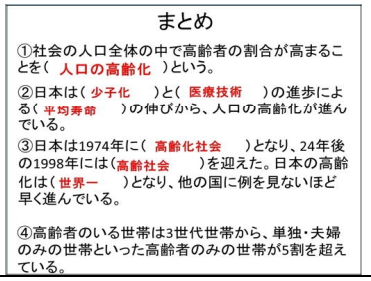
活　用：教師のプレゼン資料として使用する。

効　果：「高齢者」領域の基礎知識や，日本の高齢化の現状及び特徴について学習できる。
ワークシートと連動しているため，学習内容を整理しやすい。
読み取りが苦手な生徒でも理解できるよう，表の見方や読み取る視点が示されている。

表２　ディジタル教材①「日本の高齢化の現状」（スライド全34枚）

テーマ	A 「高齢者」に関する基礎知識（クイズ形式）スライド４枚	B 日本人の平均寿命の推移 スライド２枚	C 主要国の65歳以上人口の割合（高齢化率）スライド４枚
内容			
出典	なし	厚生労働省「平均寿命の推移」より	金融広報中央委員会「平均寿命の推移」より作成
特徴	「高齢者」基礎知識をクイズ形式で出題。 ＊「高齢者」とは（補足解説） ＊「高齢化社会」「高齢社会」の定義（選択問題） ＊「高齢化率」 ＊基礎知識（まとめ）	＊昭和22-平成21年までの男女別平均寿命の推移を見る。 ＊「男」「女」「平均寿命（数値）」の穴埋め。 ＊データから読み取れる事や，背景にある要因について考える。	＊米，独，瑞，英，仏，日本の高齢化の割合（推移）を1950-2050年で10年毎に観察できる。 ＊1・2・6位から米，独，日本を答える。 ＊「高齢化社会」「高齢社会」の表示及び解説付き。

テーマ	D 出生数及び合計特殊出生率の推移 スライド２枚	E 我が国の人口ピラミッドの変化 スライド17枚	F 高齢者の世帯構成割合の推移 スライド１枚
内容			
出典	厚生労働省「2008年人口動態統計月報年計（概数）の概況」より引用	総務省統計局・政策統括官（統計基準担当）・統計研修所による統計データより引用	厚生労働省「国民生活基礎調査」より引用
特徴	＊1948-2008年の年次推移を確認できる。 ＊左右に軸のあるグラフは読み取りが難しいため，見方を示した。 ＊「出生率」「合計特殊出生率」の語句の説明付き。 ＊解説付き。	＊1940-2010年まで５年毎の人口ピラミッドをアニメーションで確認できる。 ＊将来推計2020（平成33）年も掲載。 ＊解説及び読み取り結果を表示した。人口ピラミッドで我が国の人口構成について考えさせる。	＊教科書のデータを引用し，グラフを見るときの視点を「高齢者のみ」の世帯と，そうではない世帯においた。 ＊生徒の生まれ年と比較し，世帯構成割合がどう推移しているかを示した。

テーマ	G 日本の高齢化の特徴 スライド１枚	H 高齢期とは スライド３枚	
内容			
出典	SmartArtグラフィックを使用	なし	
特徴	＊スライドA～Fのまとめ。 ＊少子化と平均寿命の延びから少子高齢化につながり，様々な社会問題をもたらしている。	＊生涯を見通して高齢期を捉える。	＊人口の高齢化，日本の高齢化の特徴についてまとめ，基礎知識の確認ができる。

(2) ディジタル教材②「高齢者を支えるしくみ」（８／８時間）（表３）

ねらい：社会保障制度から高齢者の自立生活を支えるための支援について考える

活　用：教師のプレゼン資料として使用。

効　果：生徒が理解しにくい社会保障制度についてコンテンツにまとめた。
沖縄県の市町村別高齢化の比較もできる。

表３　ディジタル教材②「高齢者を支えるしくみ」（スライド全27枚）

	テーマ	枚数	内容	ねらい
a	高齢化の比較（都道府県別）	2	都道府県別の65歳以上人口の割合を平成17年・平成22年で比較し，変化をみる。	各地で高齢化は急速に進んでいることを確認する
b	高齢化の比較（県内市町村別）	4	県内市町村の高齢化の比較を行う。全市町村，生徒の住所のある市町村，上位･下位で表示した。	自分の住む市町村の高齢化率を確認する。
c	高齢者の生活の工夫（衣食住）	1	教科書から抜粋し，衣食住の工夫点をとポイントをまとめた。 「高齢者支援」の導入として使用した。	衣食住の工夫によって，高齢者は生活しやすくなる ユニバーサルデザインに発展させる
d	「高齢者支援」の基礎知識	1	ノーマライゼーションやバリアフリー等の語句の確認	高齢者支援に関する考え方や法律について確認する
e	社会保障制度 （全体像，国民年金等）	9	社会保障の理念と種類で全体像を押さえた後，国民年金や介護保険について詳しく学ぶ。	「高齢者支援」を社会で支えるしくみについて学ぶ
f	国民医療費	2	高齢化が深刻化すると起こる国民医療費の増加をみた。	介護保険制度について考える
g	介護保険制度 （システム，サービス）	6	介護保険制度の内容，加入対象，利用方法について穴埋め式でまとめた。 居宅・施設・地域密着型サービスの内容のスライド	介護保険制度について，おおまかな概要を押さえる
h	「高齢者」に関する社会の動き	2	「高齢者」の定義見直しの紹介。医療費対策について多くの視点から考える材料となる。	増える高齢者や国民医療費の国の対策案を考えさせる

(3)　ディジタル教材③「高齢者の身体的特徴」（動画）（３／８時間）（表４）

ね ら い：日常動作から高齢者の身体的特徴を読み取る

撮影対象：79歳男性

効　　果：「歩行」「走る」「屈伸」「階段の昇降」「靴を脱ぐ・履く」「車の乗り降り」について，
その身体的特徴を動画により観察することによって理解することができる。

表４　ディジタル教材③「高齢者の身体的特徴（動画）」

テーマ	歩行	走る	屈伸
内容			
概要	歩行の様子を側面・後方から観察できる構成。観察の視点を画面に表示。	歩行と同じように側面・後方から観察できる。膝や腕の振りなどに着目。	しゃがんだ状態からの立ち上がりの動作を観察する。膝の角度に着目。
テーマ	階段の昇降	靴を脱ぐ・履く	車の乗り降り
内容			
概要	手すりを使った階段の昇降の様子を側面から撮影・編集。膝や手すりを使った体重移動等に着目。	正面，斜め前の２画面構成。 膝の角度，立ち上がり，支えなどに着目。	車高や座面の角度により乗り降りのしやすさが変わる。２画面で比較でき，指導者用は解説画面で一時停止する。

(4) 授業展開の工夫

① シニア体験（３／８時間）（表５）

場所：本校被服教室

表５ 「シニア体験」授業展開の工夫

＜ねらい＞

３つの世帯を比較し，高齢者の心身の特徴や変化について理解する。

＜用具＞

シニア体験セット（アイマスク，ヘッドホン，手袋，おもり，肘・膝用サポーター），お茶セット，新聞等

＜設定＞

＊「３世代世帯」「夫婦のみの世帯」「単独世帯」の３つの世帯を設定する

＊「３世代世帯」→「夫婦のみの世帯」→「単独世帯」の順で行う。

＊役割：高齢者，子供，孫，集金係，ナレーター，記録

※記録者は様子を観察し，高齢者の心情について考え，記録する。

＊シニア体験セットを着用し，身体機能が衰えた高齢者の疑似体験を行う。

＊シナリオを基に，生活場面の疑似体験を行う。

＜内容＞

＊「お茶を入れる」「新聞を読む」「お金を払う」「郵便物を受け取る」の内容で作成されたシナリオに沿って，各世帯で体験する。

＜特徴・工夫した点＞

＊３つの世帯の比較から，高齢者の心理について考える。

＊老化の体験に加え，世帯の違いによる高齢者の心情を体験できる。

シニア体験（夫婦のみの世帯）シナリオ

温かい日の午後、ご飯も食べ終わり、お茶を入れて飲むことにしました。

１おばあちゃんがお茶を入れ、二人でお茶を飲む。
おじいちゃんは近くにあった新聞を取ります。

２新聞を読む。夫婦で新聞の話題や世間話をする。

♪ピンポーン♪

「こんにちは。新聞の料金の徴収に来ました。
2990 円です。」

３おばあちゃんはお金を渡す。

♪ピンポーン♪　　「郵便でーす」

４おばあちゃんは受け取る。遠くに住む息子から荷物が届いた。
おばあちゃんは中を見て、おじいちゃんと話をする。

② 介助体験（４／８時間）（表６）

場所：本校被服教室

表６ 「介助体験」授業展開の工夫

＜ねらい＞

介助する側・される側を体験し，介助の技術と適切なかかわり方を理解する。

＜設定＞

＊場面：「おかゆを食べさせる」

＊方法：介助者・被介助者の両方を３人１組で交代する。

＊場所：作業台をベッド代わりにする。

＜特徴・工夫した点＞

＊介助する人は「立って行う」「座って行う」，介助される人は「仰向けで介助される」「顔を横に向ける」の等の場面を設定した。

＊介助する側はシニア体験セットを着用し，老老介護について疑似体験する。

③ 高齢者交流活動（５・６／８時間）（表７）

場所：特別養護老人ホーム内のデイサービス（浦添市内）

表７ 高齢者交流活動の授業展開

＜ねらい＞

高齢者と話したりゲームをしたりすることを通してこれまでの人生について学び，現在の心境などを理解する。

＜内　容＞

＊高齢者との談話

＊高齢者とのゲーム

＜交流活動にあたって＞

＊移動（20分），挨拶・交流活動（60分），移動（20分）（施設より送迎あり）

＊高齢者の興味や関心に関する質問を生徒に考えさせる。

＊事前指導を行い，お礼の言葉の代表挨拶を指名しておく。

＊動きやすい服装で，名札を胸に貼る。

＊高齢者とのレクレーションを考えておき，高齢者インタビューの内容も参考にするとスムーズに交流できる。

④ 高齢者インタビュー（７／８時間）（表８）

場所：本校被服教室

表８「高齢者インタビュー」の授業展開例

＜ねらい＞

祖父母の生きてきた時代や，祖父母の思いを知る。

＜内容＞

＊自分の祖父母や曾祖父母について，簡易家系図で確認をする。

＊インタビュー内容

○生年月日　○趣味・特技
○仕事歴　○不安なこと
○健康の秘訣　○嬉しかったこと
○大変だったこと　○一番の楽しみ
○今後やってみたいこと
○高校生に，人生の先輩として伝えたいこと
○これまでのライフイベント（表にまとめる）
○その他

＊感想

＊上記について冬休みの宿題とし，３学期最初の授業でB４サイズの紙にまとめ，発表する。

最も嬉しかったこと
孫達が家に来てくれる

一番の楽しみ
・孫達の顔を見ること

今後やってみたいこと
郷里 久米島への旅行

最も大変だったこと
戦争で被害を受けたこと
まだ小さかったから
とても怖かったそうです。

病気にもかからずずっと健康でいて孫たちと遊ぶ

やってもらいたいこと
野球と勉強を両立してすばらしい人になってほしい。誰よりも頑張ってほしい。

＜生徒の感想＞
・ばぁちゃんの昔話を聞く機会は今まで無かったのでいろいろ聞けて良かった。苦労したりしている話を今まで聞いたことが無かったので，やっぱりばあちゃんはすごいなと改めて尊敬した。
・初めておばぁちゃんに色んなことを聞いて，知らなかったことがわかったのでいい機会になった。これからもっと話をするようにしたい。

Ⅲ　指導の実際

１　題材名　「高齢者と共に生きる」

２　題材の評価計画

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	生活の技能	知識・理解
ア　高齢者を取り巻く社会問題について関心を持つ。 イ　体験活動を通して，高齢者はどのように感じているか考えることができる。 ウ　体験活動を通して，高齢者とコミュニケーションを図り，思いやりを持って接しようとしている。 エ　高齢期の過ごし方や世代を超えた交流について関心を持つ。	ア　高齢者の生活の現状について，課題を具体的に見いだすことができる。 イ　体験を通して世帯構成別の高齢者の日常生活について考える。 ウ　高齢者から学んだ生き方や考え方などの聞き取り調査をまとめることができる。 エ　高齢者の自立生活を支えるための支援の方法について考える。	ア　体験学習を通して，高齢者と適切にかかわることができる。	ア　日本の少子高齢化の現状及び特徴がわかる。 イ　高齢者の心身の特徴や変化について理解している。 ウ　高齢者の生活を支えるために必要な基礎的・基本的な技術を体験的に理解している。 エ　高齢者との適切なかかわり方について理解している。 オ　高齢期の生活実態及び家族・社会の抱える今後の問題点を理解している。

３　題材の指導計画と評価計画（全８時間）

【関】関心・意欲・態度　【思】思考・判断・表現　【技】生活の技能　【知】知識・理解

指導項目	時間	指導目標	学習内容	関	思	技	知	評価の方法 教材・教具
高齢者の生活と	1	・日本の高齢社会の現状を理解させる。 ・高齢者の生活の現状と課題について認識させる。	ディジタル教材①「高齢化の現状」 ・少子高齢化の現状と世帯構成の変化のようすがわかる。				ア	・プロジェクター ・パソコン ・ワークシート①
	2	・高齢社会の課題について考えさせる。	・要介護高齢者の増加に伴う社会問題について理解する。 ・老老介護　・買い物難民 ・孤独死　・医療難民 ・軽犯罪　・高齢者虐待 ・オレオレ詐欺	ア	ア			・新聞切り抜き ・発言 ・ワークシート②
	3 本時 3/8	・加齢に伴う心身の変化と特徴について理解させる。	ディジタル教材③「高齢者の身体的特徴（動画）」 シニア体験 ・現代の高齢者の世帯構成割合を参考に，単独世帯，夫婦のみの世帯，３世代世帯		イ		イ	・シニア体験セット ・シナリオ ・ワークシート③

	時間							
			にグループを分ける。 ・シニア体験セットを装着し，加齢に伴う心身の変化と特徴について理解する。					
高齢者を理解する	4	・高齢者の生活を支えるために必要な基礎的・基本的な介助の技術を体験を通して理解させる。 ・高齢者の尊厳を保ち，残存能力を生かした自立生活支援の必要性を認識させる。	介助体験（食事） ・介助体験を行い，基礎的・基本的な介助の技術と，適切なかかわり方を体験を通して理解する。 ・シニア体験セットを装着したまま介助体験を行うことで老老介助について考える	イ			ウ	・シニア体験セット ・食事介助用品 ・発言 ・行動観察 ・ワークシート④ ・おかゆ
	5 6	・高齢者と適切にかかわることができる。	高齢者交流体験 ・福祉施設を訪問し，デイサービスで交流体験を行う。	ウ		ア	エ	・ワークシート⑤ ・行動観察
	7	・高齢者インタビューの結果を発表を行う。 ・高齢化に伴う家族・社会の抱える今後の課題について考えさせる。	高齢者インタビュー ・高齢者とかかわることの重要性について考える。	エ	ウ			・ワークシート⑥ ・発表
高支齢え者るを	8	・高齢者の自立生活を支えるための支援の方法について考えさせる。	ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ教材②「高齢者を支えるしくみ」 ・高齢者の自立生活を支えるための支援の方法がわかる。		エ		オ	・パソコン ・プロジェクター ・ワークシート⑦

4　本時の指導展開

(1) 主　　題　　高齢者を理解する

(2) 指導目標　　加齢に伴う心身の変化と特徴について理解することができる。

(3) 評価基準

【評価の観点】	評価基準			評価方法
	A　十分満足できる	B　おおむね満足できる	C　支援の具体的方法	
【思考・判断・表現】 イ　体験を通して世帯構成別の高齢者の日常生活について考える。	世帯構成別の高齢者の日常生活について比較し，心情的側面にもふれた表現ができる。	世帯構成別の高齢者の日常生活について比較し表現している。	積極的に声かけし，世帯構成別の高齢者の場面ごとの様子について助言する。	行動観察 発言 ワークシート
【知識・理解】 イ　高齢者の心身の特徴について理解している。	加齢に伴う心身の変化を具体的に捉えて理解している。	高齢者の心身の特徴について理解している。	高齢者の身体の特徴について，速度や動きなどに視点を置くよう助言する。	行動観察 発言 ワークシート

(4) 準備する教材・教具

パソコン　　プロジェクター　　ワークシート　　シニア体験セット　　生活用品

(5) 本時の展開

時間	学習の流れ	学習活動			評価の方法 教材・教具
		知る	考える	行う	
導入 5分	①前時の振り返り ②老化について考える ③本時の確認		高齢者の定義とは？ 老化はいつ頃から始まるのか？		パソコン プロジェクター ワークシート③
		加齢に伴う心身の変化と特徴について，高齢者世帯構成別の生活の様子も比較しながら考える。			
展開 37分	④ディジタルコンテンツを見て，老化の現象を探す。 ⑤発表 ⑥心理的特徴につい		ディジタルコンテンツを見て，老化の特徴を捉え，ワークシートに記入する。 高齢者の心理的特徴に	気づいたことを発表	知識・理解

	て考える ⑦発表	他の意見を知る	ついて考える		高齢者の心身の特徴や変化について理解している
	⑥説明を聞き，シニア体験をする	説明を聞き、高齢者世帯構成別のシナリオでシニア体験をする。 〈世帯〉 〈体験〉 A 単独世帯 ア 新聞を読む B 夫婦のみの世帯 イ お金を取り出す C 3世代世帯 ウ お茶を飲む			シニア体験セット
	⑦ワークシートに記入 ⑧発表	他の意見を知る		ワークシートに記入 気づいたことを発表	思・判・表 世帯構成別の高齢者の日常生活について考える
まとめ 8分	⑨授業を振り返る ⑩次時の予告	加齢に伴う心身の変化について確認 次時の確認			

Ⅳ　仮説の検証

1　ディジタルコンテンツによって高齢者理解は深まったか

ワークシート「高齢社会の現状と特徴」において，与えられたグラフから高齢化の特徴を読み取る記述がみられた（図３）。ディジタル教材①及び②を活用したことへの効果についてのアンケートで，「図や表から日本の高齢化の特徴について読み取る際，ディジタルコンテンツは役立ったか」（図４）を問うと，78.7%が「役立った」と答え，「図を見て考えることができたか」についても，約８割が「できた」と回答した。また，全ての検証授業終了後，「高齢者」に関する基礎知識の平均正答率は69%から81%となり，「高齢者を理解する」における必要な基礎知識の習得がみられた（図５）。

次に，ディジタル教材③を視聴させ，79歳男性の動作を観察させたところ，「一歩一歩が小さい」，「膝が曲がってない」等，表９に示すような，具体的な身体的特徴の記述がみられた。特に，「走る」，「階段の昇降」については，高齢者の行動が思った以上にゆっくりであることに注目し，イメージとの違いを感じていた。高齢者の身体的特徴を読み取ることにおいて，ディジタルコンテンツの効果を尋ねたアンケートでは，87.9%がその効果を認めた（図４）。しかし，「見づらかった」「比較ができなかった」等の理由から，「やや役立たなかった」としていた。このことから，ディジタルコンテンツのさらなる改良と，視聴させる際の工夫が必要であると考える。

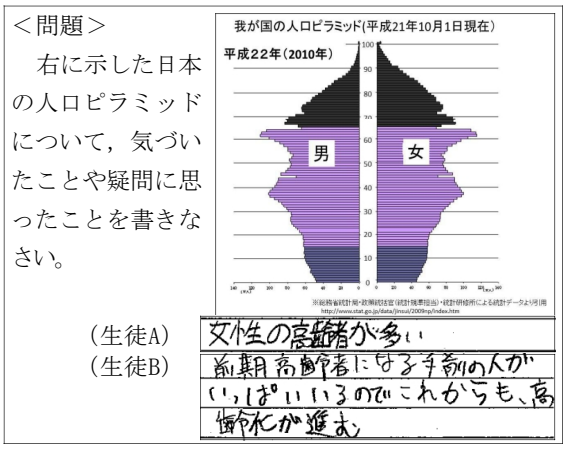


図３　ディジタル教材①から読み取った高齢化の特徴

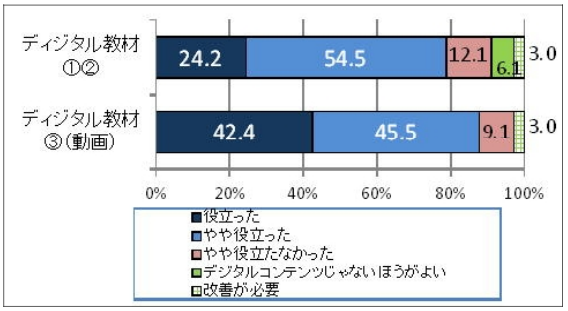


図４　ディジタルコンテンツは役立ったか

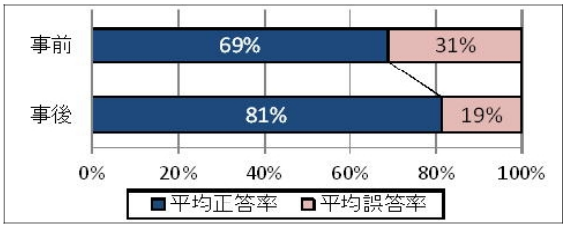


図５　基礎知識の平均正答率

表９　動画から読み取った「高齢者の身体的特徴」（抜粋）

行動	歩行	走る	車の乗り降り	階段の昇降
内容	・ゆっくり，遅い ・ひざが曲がりにくい ・膝が痛そう ・ぎこちない ・一歩一歩が小さい	・たまにつまずきそう ・歩幅が小さい ・無理やり走ってる ・ひざがあまり曲がってない ・歩いているみたい	・上の取っ手を使っている。 ・車高が高い方がスムーズ ・つかむもの，支えが必要。 ・天井が高い方が良い。 ・腰や足を曲げたりがつらそう ・手をつけられる場所があるといい	・降りるとき，肩がめっちゃ動く ・手すりで身体を引っ張ってる ・一歩一歩ゆっくり歩いている ・手すりがないと昇りにくそう

2　体験的活動によって高齢者理解は深まったか

今回行った体験的活動には，シニア体験，介助体験，高齢者インタビュー，高齢者交流活動がある。

初めに，シニア体験の結果から，表10に示す生徒の記述がみられた。生徒たちは疑似体験により動作が遅くなることを実感し，さらに世帯別で生活の様子を比較することで，高齢者の心情について考えることができた。また，介助体験では被介助者の気持ちを体験し，介助者が気をつけるべき点を考察した記述が見られた（表11）。

次に，高齢者インタビューでは，祖父母の「嬉しかったこと」や「一日の楽しみ」の多くが孫のことであることを知り，祖父母のこれまでの生活体験や戦争体験，現在の生きがいや，健康のこと，今後の夢等について聞き取りを行った後，ライフラインチャートにまとめた（図６）。このように生徒たちは，祖父母とコミュニケーションを取る機会を得たことで，「ばあちゃんの昔話を聞く機会は今まで無かったのでいろいろ聞けて良かった」「改めて尊敬した」「これからもっと話をするようにしたい」等，改めて祖父母の存在について考えたようである。

表10　シニア体験にみる生徒の記述

＜お茶を入れて飲む＞
- 見えにくそうで，ポットに顔を近づけて入れてた。
- 危なっかしい

＜新聞を読む＞
- 文字がぼやける　・読みにくそう

＜お金を支払う＞
- すべる　・動作が遅い

＜世帯別に比較する＞
- 単身世帯は話し相手がいなくて寂しそう
- 夫婦世帯は協力してできている
- 3世代はみんなで楽しそうで生活しやすそう

表11　介助体験にみる生徒の記述

＜被介助者＞
- 介助者が立ったままだとちょっと恐かった。
- 立ったまま介助されると恐かったが，目の高さが同じで顔を横向きにすると恐くないし食べやすい。

＜介助者＞
- 相手にペースを合わせるのが難しい
- スプーンの向きを変えないといけない感じだったので，大変そう
- 食べる前に声かけしてあげたら良さそうだった。

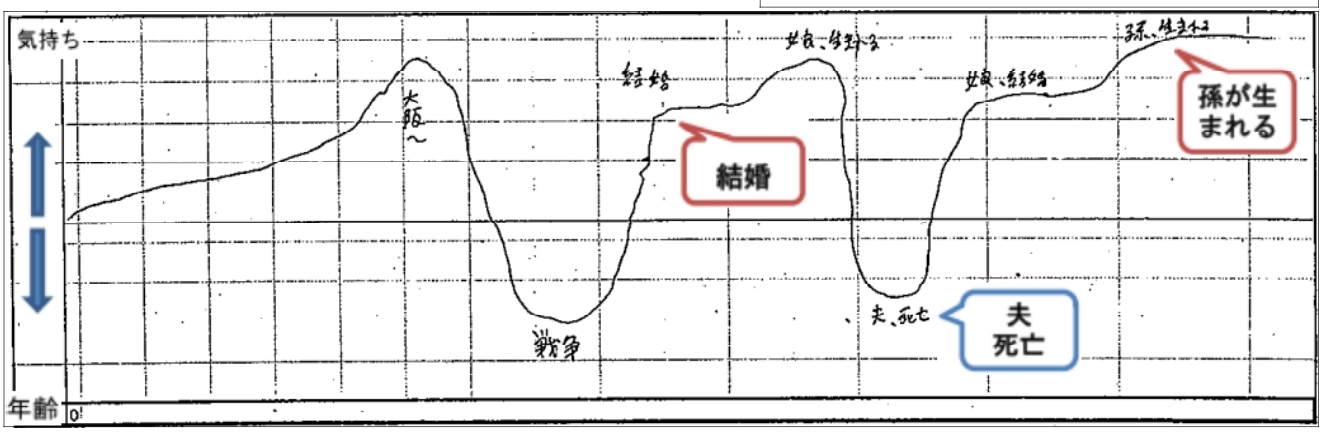


図６　「祖父母のライフラインチャート」高齢者インタビューより（生徒Ａ）

さらに，高齢者交流活動でも変化が見られた。デイサービスに通う高齢者のイメージを事前に質問したところ，「優しそう」，「楽しそう」等，最初から良いイメージを持った生徒はわずか13％であった（図７）。73％の生徒は，自分の祖父母以外の高齢者とコミュニケーションを取ることに対して，「厳しそう」，「暗いイメージ」，「会話がかみ合わなそう」等，不安を感じる記述が多くみられた。しかし，実際に高齢者と触れあい，高齢者の話を聞き，カラオケやゲームを一緒にすることで，徐々に打ち解けることができ，活動後には「みんな元気で明るかった」等，好意的な感想がみられた（表12）。交流活動後の意識調査からも，「元気」「明るい」「優しい」等，良いイメージが13％から87％に増加した。

以上のことから，シニア体験や介助体験，高齢者インタビューや高齢者交流体験活動を通して高齢者理解を深め，さらに高齢者に対するイメージが肯定的なものへと変容したことがわかる。

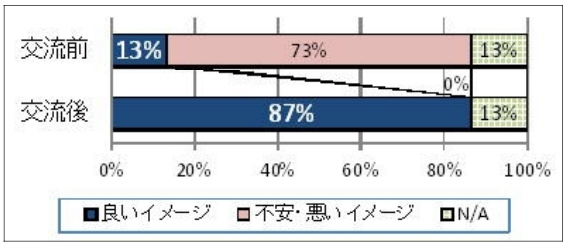


図７　デイサービスに通う高齢者のイメージ

表12　高齢者交流活動後の生徒の感想

- もっと，長い時間介護施設にいたかった。
- 将来，高齢者になるので自分のため，祖父母のためになるのでいいと思いました。
- 体験前は身体が弱くて元気がないというイメージだったけど，体験後は高齢者に対するイメージも変わって予想以上に元気で驚いた。高齢者のことを知るためにも，高齢者交流は必要だと思う。
- デイサービスには機械などあったことが印象的だった。いろいろな高齢者の方々とふれあえて本当に楽しく勉強できた。
- 思った以上に明るくて，逆に元気をもらえた。

３　授業前後で生徒の意識は変容したか

「祖父母は好きか」の問いかけに，「きらい」と答えた生徒は授業前後で０％，「好き」「どちらでもない」も授業前後でわずか３ポイントの変動しかみられなかった。しかし，「授業を通して高齢者に対するイメージは変化したか」の問いに対しては，61％が「よくなった」と答え，「悪くなった」生徒は０％であった。このことから，授業を通して，「高齢者」のイメージが「おじぃ・おばぁ」の持つ良いイメージへと近づいたといえる。（図８）

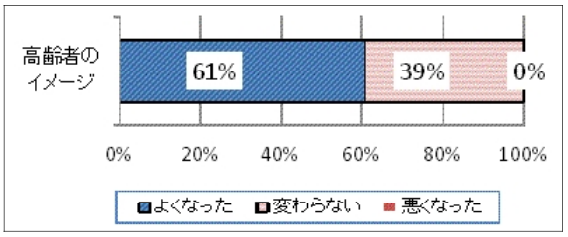


図８　授業を通しての高齢者のイメージ

事前のウェビングでは，「高齢者」のイメージが「介護」，「老人ホーム」，「年金」，「バリアフリー」等，施設や制度に関する言葉が多く，「おじぃ・おばぁ」から得られた言葉と比較すると，情意的なものが少なかった。しかし，事後のウェビングでは，平均10.8個の言葉をあげ，その内容は，施設・サービスや高齢者領域の既習内容，情意的な言葉等，幅広いものとなった。特に情意面で，好意的な言葉が増えた（図９・図10）。

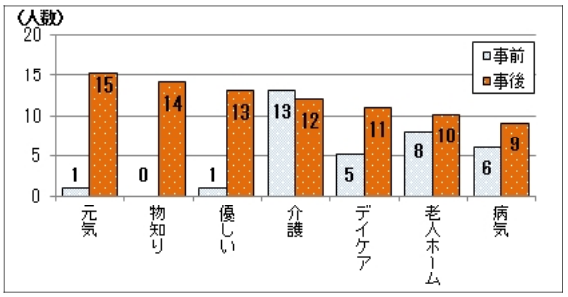


図９　「高齢者」に対するウェビングの事前事後の比較

以上のことから，「高齢者」に対するイメージは，授業後において肯定的な言葉を中心とした「おじぃ・おばぁ」のイメージに近づき，高齢者理解の深まりがみられた。

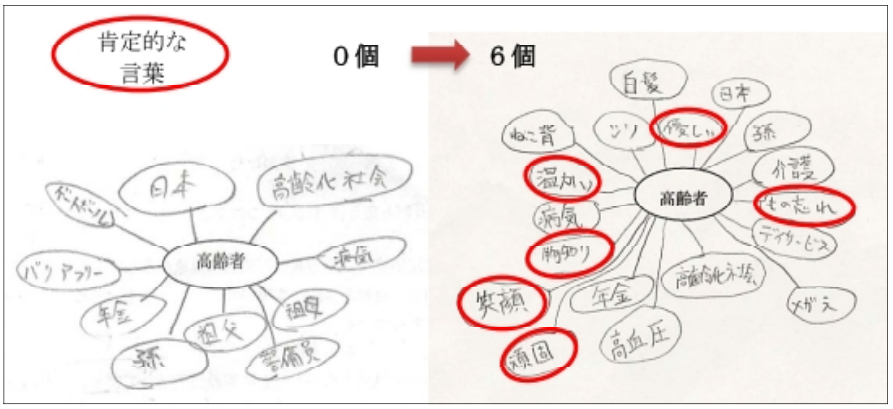


図10「高齢者」に対するウェビングの事前事後比較（生徒Ｂ）

Ⅴ　成果と課題

１　成果

(1) 動画を編集したディジタルコンテンツや，図・グラフの読み取りのためのディジタルコンテンツを活用することで，日本の高齢化の特徴や高齢者の心身の特徴についての高齢者理解を深めることができた。

(2) シニア体験や介護体験，高齢者交流などの体験的活動を行ったことで，生徒自身の祖父母や地域の高齢者とコミュニケーションをとる機会ができ，肯定的なイメージで高齢者を捉え，高齢者理解を深めることにつながった。

２　課題

(1) ディジタルコンテンツの改良

①　「高齢者の身体的特徴（動画）」の対象者に，80代・90代の高齢者を加え，高校生と比較する等の改良を行う。

(2) 授業づくりの見直し

①　「高齢者の身体的特徴（動画）」の読み取りを行い，シニア体験で実感させ，地域，社会でできる高齢者への生活支援の方法を考えさせる。

②　高齢者インタビューの内容に「生活する上で困っていること」の項目を加え，家庭や地域，社会でできる高齢者支援について考えさせる。

〈主な参考文献〉

文部科学省　2010　「高等学校学習指導要領解説　家庭編」開隆堂出版株式会社

資料出所：金融広報中央委員会「知るぽると」http://www.shiruporuto.jp/finance/tokei/stat/index.html

厚生労働省「国民生活基礎調査」http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/20-21.html

総務省統計局・政策統括官・統計研修所　http://www.stat.go.jp/index.htm